

活用実践者の取組を知って、
パブリックスペースの活用ポイントを確認しましょう！



1 パブリックスペース
活用ガイドラインとは

2 パブリックスペースの
活用イメージ

3 活用に必要な手続き

4 活動内容により
必要な手続き

5 活用実践者の声

6 さいごに

付録

公開空地等の活用

イベント名称	創成イーストシネマ2025 創成クロス会場
実施者	企画・運営：キノマド（主催：サッポロ不動産開発株式会社）
活用場所	公開空地等（創成クロス「創成の森」（札幌市中央区北4条東4丁目））
管理者	サッポロ不動産開発株式会社
占用・使用期間	2025年8月8日、9日、10日
取組概要	夏の夜空の下、都会の喧騒を忘れ、開放的な屋外空間で映画を楽しむことができるイベント。アカプラ等でも開催実績あり。



Q. つかってみて、どうでしたか？
（良い点、課題点等）

A. （良い点）電源が整備されていてとても使いやすかったです。規模感もちょうどいいと感じました。よくイベント利用されている会場とは違って、参加者層もいつもと違っていたところが印象的でした。

（課題点）線路が近く、映画の音と少しだけ干渉してしまったところです。



Q. 公開空地等の活用にあたって、留意することはありますか？

A. マンションが近いことから、騒音に注意しました。参加者が多くなってしまった場合は、歩道上に溢れないよう注意が必要です。映画の選定においても、場所にあった作品とメッセージを考えています。

Q. 今後、どのような活用をしていきたいですか？

A. 市内の様々な場所で上映会を広げたいと考えています。また、夜だけのコンテンツだけでなく、昼は古本市など多様な活用もしていきたいです。上映会を希望される方はぜひお問い合わせを！

インタビューを
受けていただいた方

キノマド代表 田口さん (taguchiryo@kinomado.com)
<https://www.kinomado.com/>



公開空地等の活用

イベント名称	shin-sapporo good summer festival
主催者	一般社団法人新さっぽろエリアマネジメント
活用場所	公開空地等（アクティブガーデン）
管理者	大和ハウス工業株式会社
占有・使用期間	2025年8月21日、23日、24日
取組概要	大人から子どもまで楽しめる体験型イベント。夏の思い出を新さっぽろで作るために、地域の交流と楽しさが詰まった体験型イベントを実施。



**Q. つかってみて、どうでしたか？
（良い点、課題点等）**

A. アクティブガーデンは商業施設から見えづらい所にあったため、認知度の向上につながりました。集まる場所と企画者（イベント）がいればどのエリアでも地域活性化につながると実感しました。イベント開催時には多くの人が集まり、地域のにぎわい創出に寄与できました。

Q. 公開空地等の活用にあたって、留意することはありますか？

A. イベントを開催してるという告知活動にはお金がかかるため、十分ではありませんでした。告知看板など道路利用等の緩和措置などがあれば、少ない経費で対応ができたと感じました。

Q. 今後、どのような活用をしていきたいですか？

A. 毎年継続して行い、地域の方々が楽しみにして頂けるようなイベントを開催し、アクティブガーデンの認知度を上げるとともに、地域の憩いの場としての位置づけを目指したいです。

インタビューを
受けていただいた方

一般社団法人 新さっぽろエリアマネジメント 杉本さん
<https://shinsatsu-erimane.or.jp/>



公園の活用

イベント名称	SHIN SAPPORO OPEN SPACE
主催者	札幌学院大学
活用場所	科学館公園
管理者	札幌市
占有・使用期間	2025年6月29日
取組概要	公園内に芝生でくつろげるリラククスエリア、シャボン玉や水鉄砲で遊べるアクティブエリア等の自由に使える空間を整備する実験を実施。利用者へのアンケートを行い、公園活用に関するニーズ調査を行った。



- Q. つかってみて、どうでしたか？
（良い点、課題点等）
- A. 普段はあまり見られない多世代の交流が生まれ、公園が賑わいの空間になったことがよかったと感じました。天候によって利用状況が左右されてしまうということが、屋外で実施するうえでの難しかった点だと考えます。
- Q. 公園の活用にあたって、留意することはありますか？
- A. 歩行者動線を十分確保し、アクティビティを行う際の安全なエリアを確保することが重要です。また、トラブルなどを防ぐため、周辺の商業施設や住民への配慮も必要です。
- Q. 今後、どのような活用をしていきたいですか？
- A. 今後は、どのような空間が求められているのか、またどのようにすれば街に賑わいが生まれるのかを、実践的な活動を通じて調べていきたいです。

インタビューを
受けていただいた方

札幌学院大学 経済経営学部 経営学科 齋藤さん

1
パブリックスペース
活用ガイドラインとは

2
パブリックスペース
活用イメージ

3
活用に必要な手続き

4
活動内容により
必要な手続き

5
活用実践者の声

6
さいごに

付
録

広場の活用

イベント名称

サッポロフラワーカーペット2025

主催者

札幌駅前通地区活性化委員会
SAPPORO フラワーカーペット実行委員会

活用場所

札幌市北3条広場（アカプラ）

管理者

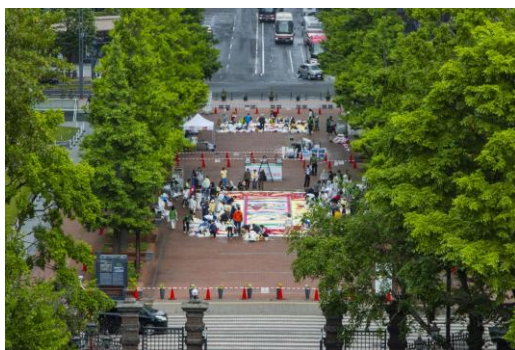
札幌市（指定管理者：札幌駅前通まちづくり（株））

占用・使用期間

2025年6月26日～29日 ※6月26日は制作及び展示

取組概要

市民約500名がカーネーション等の花びらを敷き詰め、巨大な花絵を作る体験型イベント。2025年度はアカプラを中心に都心5会場を彩った。



Q. つかってみて、どうでしたか？
（良い点、課題点等）

A. （良い点）開放的な空間であるため、約500名もの市民ボランティアが一体となって作業する「体験型イベント」の場所として適していました。また、赤れんが庁舎の望む景観の美しさと、花びらを敷き詰めるフラワーカーペットの相性が抜群でした。また、札幌市の景観の種（活用促進景観資源）としても登録され、市民自らが創出する札幌の観光資源として、札幌ならではの景観に個性を与えるイベントに育っています。

（課題点）日常的に多くの市民が通行する広場であるため、制作中の動線確保など、公共性とイベントの両立が難しいと感じました。また、屋外で天候に左右されるため、地区内の屋内空間と連動して実施する工夫が必要だと考えています。

Q. 広場の活用にあたって、留意することはありますか？

A. 広場は、イベント参加者だけのものではなく、普段そこを通る方々にとっても大切な場所であるため、制作中や設営時も「何を作っているのか」を上手く可視化し、完成までの過程をオープンにしながら、通行人の期待感を高めことで、まちへの参画を促すことが重要と考えています。

Q. 今後、どのような活用をしていきたいですか？

A. 2025年度に5会場で開催したように、今後はアカプラを核として、さらに周辺の民間敷地や公開空地とも連動し、都心部の回遊を促すような活用をしたいです。

インタビューを
受けていただいた方

サッポロフラワーカーペット実行委員会 事務局
柴田さん・藤本さん・野夫井さん
<https://www.sapporo-flowercarpet.com/>



1 パブリックスペース
活用ガイドラインとは

2 パブリックスペースの
活用イメージ

3 活用に必要な手続き

4 活動内容により
必要な手続き

5 活用実践者の声

6 さいごに

付録

道路の活用

イベント名称	コンサふれあい通りのホコテン化プロジェクト
主催者	宮の沢まちづくり協議会（ピクニック・フェス宮の沢実行委員会）
活用場所	コンサふれあい通り（宮丘小学校通西線）
管理者	札幌市
占用・使用期間	2025年8月23日 9時～20時半
取組概要	宮の沢ふれあい公園内で行われる地域のお祭り「コンサタウンふれあいフェスタ」の開催にあわせて、来場者の安全性確保のため、前面道路であるコンサふれあい通りを歩行者天国化。 同時に道路上と隣接する白い恋人パーク内で、ピクフェス・フェス宮の沢を開催し、他の会場との往来もしやすくなり、地域の賑わい創出にも寄与。



Q. つかってみて、どうでしたか？
（良い点、課題点等）

A. 道路を活用することのハードルはもともと感じていましたが、実際に活用してみて、歩行者の安全性が格段に向上しました。また、2つのお祭りを繋ぐ道路上でもイベントを行うことで、更なる地域の賑わい創出にもつながり、メリットをとて感じました。

Q. 道路の活用にあたって、留意することはありますか？

A. 道路を通行止めにする際には、しっかりと地域に事前に周知して合意を得ることが重要です。また、当日も充分な誘導員の配置のほか、道路上は強風の影響を受けやすく熱中症のリスクも高いため、適切な対策が不可欠です。

Q. 今後、どのような活用をしていきたいですか？

A. 歩行者天国を、地域の風物詩となるイベントとして将来も続けていきたいです。また、道路の活用を通じて、地域の人や宮の沢に訪れる方の交流が生まれるような活用をしていきたいです。

インタビューを
受けていただいた方

ピクニック・フェス宮の沢実行委員会
<https://www.instagram.com/picnicfes/>



1
パブリックスペース
活用ガイドラインとは

2
パブリックスペース
活用イメージ

3
活用に必要な手続き

4
活動内容により
必要な手続き

5
活用実践者の声

6
さいごに

付
録

道路の活用

イベント名称	ミニ大通誕生祭
主催者	ミニ大通を未来へつなぐ協議会
活用場所	ミニ大通（北4条線）
管理者	札幌市
占用・使用期間	2024年11月9日、2025年9月20日
取組概要	2024年からミニ大通（北4条線）で開催している「ミニ大通誕生祭」に合わせて、来場者の安全性確保等のため道路の一部を歩行者天国化した。キッチンカーやモルック等の遊び場を設置することで、子供から大人まで安全にイベントを楽しむことができ、地域の賑わい創出にも寄与。



Q. つかってみて、どうでしたか？
（良い点、課題点等）

A. ミニ大通では、稀にかなりスピードを出して走っている車両があったり、自転車や歩行者が乱横断したりするので、通行止めにする事で来場者が安心して、安全にイベントを楽しむことができましたと思います。



Q. 道路の活用にあたって、留意することはありますか？

A. 普段は通れる道路を通行止めするので、車が誤って進入してこないよう、その道路だけでなく、もっと手前の方から看板を設置したり警備員を配置したりして、しっかりと対策する必要があると感じます。



Q. 今後、どのような活用をしていきたいですか？

A. ミニ大通誕生祭のような地域イベントを今後も継続していきたいと考えています。また、周辺のお店や高校、企業などとの連携を強化していき、回遊性のあるアクティビティーを増やすなど、コンテンツが充実した地域イベントとなるように進めていきたいです。

インタビューを
受けていただいた方

ミニ大通を未来へつなぐ協議会

1 パブリックスペース
活用ガイドラインとは

2 パブリックスペースの
活用イメージ

3 活用に必要な手続き

4 活動内容により
必要な手続き

5 活用実践者の声

6 さいごに

付録